

水と衛生

水と衛生に関する基礎データ

- 1990年から2004年の間に、12億人以上が安全な飲み水(改善された水源からの飲み水)を手に入れられるようになり、また同時期に、約12億人が改善された衛生施設(トイレなど)を利用可能になった
- 一方、10億人以上がいまも安全な飲み水を手に入れられず、うち9億人が農村地域で暮らしている
- 世界中で26億人(5人に2人)がトイレなどの適切な衛生施設を利用できず、うち20億人が農村地域で暮らしている
- 18歳未満の子ども約4億2,500万人は安全な水を手に入らず、さらに9億8,000万人以上は適切な衛生施設を利用できない
- 5歳未満の子ども1億2,500万人以上は安全な飲み水のない家庭で暮らし、2億8,000万人以上がトイレなどの衛生施設がない家庭で暮らしている
- 毎年、開発途上国に生まれる子どもはおよそ1億2,000万人以上。うち半数(50%)がトイレなどの衛生施設のない家庭に生まれ、5人にひとりが安全な飲み水がない家庭に生まれている
- 下痢性の病気による子どもの死亡の約88%は安全ではない飲み水、衛生を保つ十分な水や衛生施設の欠如が原因であり、さらに、年間、下痢に関わる病気により死亡する5歳未満の子ども190万人のうち、150万人以上がこれらの原因により命を落としている
- 毎日5,000人以上が下痢性の病気により亡くなっている
- ミレニアム開発目標7「2015年までに安全な飲み水を継続的に入手できない人の数と基礎的な衛生施設が利用できない人の数を半分に減らすこと」。現在、飲み水に関しては目標達成に向け順調に進んでいるが、衛生施設に関しては現在の進捗状況のままでは目標達成は難しい
- 2015年までに必要な費用は年間113億ドル。水と衛生のプロジェクトにかかる費用1ドルにつき、3ドルから34ドルの費用対効果があると考えられる

(2007年4月)